

令和5年度第1回盛岡広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会

日時：令和5年7月26日（水）午後2時00分から

場所：プラザおでって大会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 新委員紹介

4 議 事

(1) 報告事項…資料 1-1、1-2、1-3、資料 2

第2期みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョンの取組について

(2) その他

5 その他

6 閉会

盛岡広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員名簿

| 氏 名 | 所属・役職等 | 備考 |
|---------------------------|----------------------|-----|
| さかもとせい いち 坂 本 誠 一 | 公益財団法人岩手県国際交流協会 常務理事 | |
| すがわらあや こ 菅 原 紋 子 | 有限会社ファーム菅久 常務取締役 | |
| たかはしこう しょう 高 橋 宏 昇 | ジョブカフェいわて センター長 | 座長 |
| たなかかず し 田 中 一 史 | 株式会社北日本銀行 営業統括部部長代理 | |
| なかがるまい あき ひこ 中 軽 米 昭 彦 | 一般社団法人八幡平市観光協会 事務局長 | |
| はしばいく お 羽 柴 郁 夫 | 岩手県農業協同組合中央会 参事 | |
| はらこ たか し 原 子 崇 史 | 盛岡商工会議所 産業振興部長 | |
| ふじおか ゆう こ 藤 岡 裕 子 | 一般社団法人カダル 代表理事 | |
| ほそかわ けい こ 細 川 恵 子 | 特定非営利活動法人紫波さぷり 理事長 | |
| みつ い こう へい 三 井 康 平 | 株式会社サステナ 代表取締役 | |
| やくしげ まき こ 役 重 眞 喜 子 | 岩手県立大学総合政策学部 准教授 | 副座長 |

※任期 令和4年1月～令和6年1月（2年間） （敬称略、50音順）
（オブザーバー）

| 所属・役職等 | 氏 名 | 備 考 |
|------------------------|-------|-----|
| 盛岡広域振興局 特命参事兼企画推進課長 | 今 俊 晴 | |

（事務局）

| 職 名 | 氏 名 | 備 考 |
|--------------|-----------|-----|
| 市長公室長 | 岡 市 和 敏 | |
| 市長公室次長 | 中 嶋 孝 樹 | |
| 企画調整課長 | 鈴 木 健 二 | |
| 企画調整課課長補佐 | 牧 野 英 恵 | |
| 企画調整課政策調整係長 | 中 村 由 希 子 | |
| 企画調整課政策調整係主査 | 平 澤 祐 子 | |
| 企画調整課政策調整係主任 | 皆 川 幸 将 | |

第 2 期みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョンの令和 4 年度の実施について

1 基本方針等

中長期的な将来像：「現在（いま）をつなぎ次代へつなぐ 共に創り育む「希望のふるさと盛岡広域圏」」

基本方針：圏域における新たな産業、事業、商品、サービスの創造や知見の共有による、産業やサービスの質の向上等を図るために、圏域が有する豊富な地域資源の間に、市町の境を越えた新たなつながりを生み出す。

戦略：「産業の営みをつなぐ」「人の流れをつなぐ」「暮らしの安心をつなぐ」

2 令和 4 年度の実施状況について

【戦略 1 産業の営みをつなぐ（圏域全体の経済成長のけん引）】

見込まれる主な成果

- ・ 圏域の強みを生かした戦略産業が育成されるとともに、新たな技術開発や製品等の創出が図られ、圏域内の経済循環の促進及び関連産業における付加価値が向上する。
- ・ 各市町の地域資源の発信力が強化される。

事業分類

- ア 産学金官民一体となった経済戦略の策定、国の成長戦略実施のための体制整備（1 事業）
- イ 産業クラスターの形成、イノベーション実現、新規創業支援、地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成（3 事業）
- ウ 地域資源を活用した地域経済の裾野拡大（4 事業）
- エ 戦略的な観光施策（8 事業）

実施状況

観光施策については、新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、実績は令和 3 年度より増加傾向だが、当初値まで回復していない。

産業振興施策については、「ものづくり人材育成」における出前講座等の参加企業数、「6 次産業化の推進」における現地研修等により意見交換した団体の延べ件数が順調に増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、地域経済活動の促進に寄与している。

| | 指標数 | 達成 | 順調 | 停滞 | ■・◆※ |
|----|-------|------|------|------|-------|
| R4 | 16 指標 | 1 指標 | 2 指標 | 4 指標 | 9 指標 |
| R3 | 16 指標 | 2 指標 | 2 指標 | 2 指標 | 10 指標 |

※事業の中止など、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものを「■」と表記、集計中のものを「◆」と表記した。

【戦略2 人の流れをつなぐ（高次の都市機能の集積・強化）】

見込まれる主な成果

- ・各市町を結ぶ交通ネットワークの充実を進めることにより、医療や産業などの相互利用や高度連携が見込まれ、人やモノの流れが活発化する。
- ・中心市街地の都市機能の充実を図ることにより、流動人口が増加し、地域が活性化する。
- ・前記の取組により、圏域外からの交流人口が増加する。

事業分類

ア 高度な中心拠点の整備・広域的公共交通網の構築（3事業）

取組状況

幹線道路の整備については、事業計画どおりに推移している。広域交通の中心拠点となる盛岡バスセンター整備事業については、令和4年度に開業し、広域圏の観光パンフレットを配架する等、情報発信機能の充実を図ったが、バス運行会社の経営状況の悪化や、運転士不足などにより、発着便数が減少している。

| | 指標数 | 達成 | 順調 | 停滞 | ■ |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| R4 | 3指標 | 0指標 | 2指標 | 1指標 | 0指標 |
| R3 | 3指標 | 0指標 | 3指標 | 0指標 | 0指標 |

【戦略3 暮らしの安心をつなぐ（圏域全体の生活関連機能サービスの向上）】

見込まれる主な成果

- ・圏域全体の生活関連機能サービスの供給体制が強化されることにより、各市町における住民生活の安心の向上につながる。
- ・生活の安心感と質の向上が図られることにより、若者の定着が促進され、持続可能な地域づくりにつながる。

事業分類

- ア 生活機能の強化に係る政策分野（16事業）
イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野（4事業）
ウ 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野（3事業）

取組状況

「障がい者相談支援事業」、「若者の就業支援事業」、「南岩手山岳避難対策事業」において、目標値を達成したほか、盛岡広域シルバーケアSOSネットワークシステム登録件数、入札参加申請の電子化率等順調に推移している。

「配偶者暴力相談支援センター広域連携事業」、「岩手県央へい獣処理協議会事業」等では、当初値より現状値が減少しているが、求められるサービスの提供が十分なされており、施設の機能が維持され、生活関連機能サービスの供給が維持されている。

新型コロナウイルス感染症の影響により、出前講座や職員研修の参加者、インターンシップ事業の参加者が減少した。

| | 指標数 | 達成 | 順調 | 停滞 | 後退 | ■ |
|----|--------|------|-------|------|------|------|
| R4 | 26 指標※ | 3 指標 | 11 指標 | 3 指標 | 4 指標 | 5 指標 |
| R3 | 26 指標※ | 6 指標 | 12 指標 | 3 指標 | 0 指標 | 5 指標 |

※複数の指標を持つ事業があるため、事業数（23 事業）と一致しない。

3 今後検討する事業について

「今後検討する事業」として掲載している7事業については、担当部局間で調査研究や道路整備に向けた要望活動等を進めた。

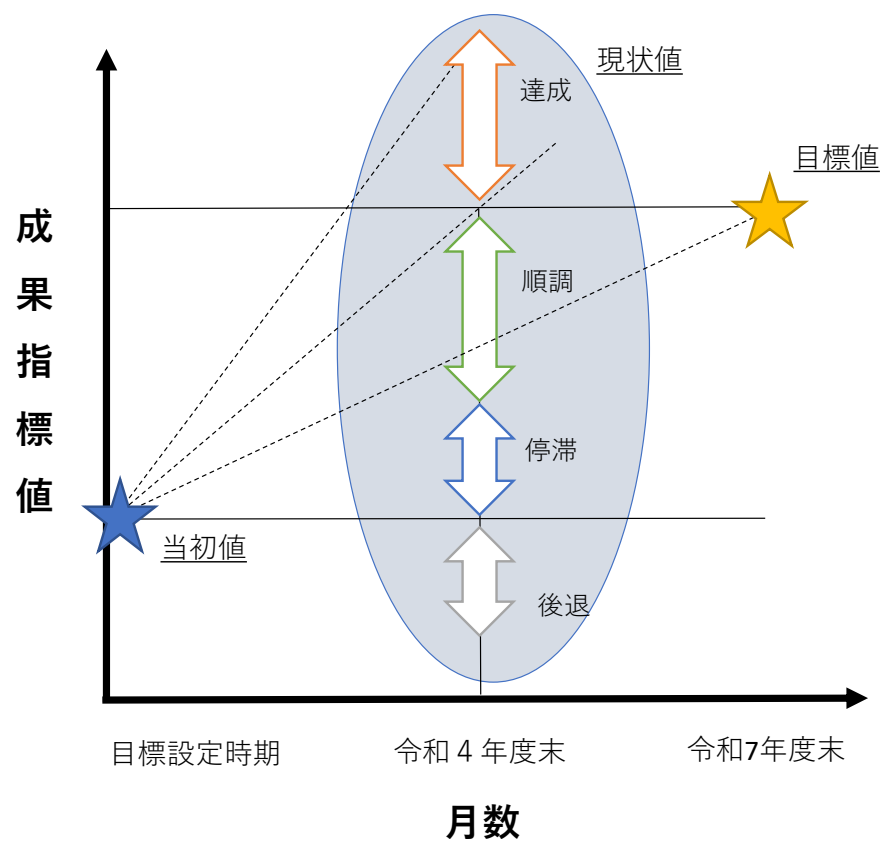
■ 成果指標について

・ 上昇指標(↑)

- ◎ 達成 正の傾きであり、目標値を超えている
- 順調 正の傾きであり、目標値に向かって上昇している
- △ 停滞 正の傾き(ゼロも含む)であるものの、当初値付近で停滞している
- × 後退 負の傾きとなっている

・ 維持指標(→)

- ◎ 達成 目標値を超えている
- 順調 高水準で維持している
- △ 停滞 低水準で維持している
- × 後退 当初の水準より著しく下降している



(補足)

■ について

新型コロナウイルスの影響を大きく受けているもの。

◆ について

集計中のもの。

| 事業分類 | 指標名 | 指標 | 単位 | 当初値 | | 令和3年度末 | 令和4年度末 | 現状値 (令和4年度末時点) | 目標値(令和7年度) | 達成状況 | |
|------|-------------------------------|---|----|------|----------|---------|---------|-------------------|------------|---------|------|
| | | | | 設定時期 | 値 | | | | | | |
| 戦略1 | 1-1 1-ア ものづくり人材育成事業 | 出前講座等の参加企業数(累計)(↑) | ↑ | 社 | 平成31年3月末 | 13 | 31 | 39 | 39 | 61 | ○順調 |
| | 1-2 1-イ 創業支援事業 | 起業家塾@もりおか参加者のうち起業した者の数(累計)(↑) | ↑ | 人 | 令和元年度末 | 9 | 12 | 13 | 13 | 21 | △停滞 |
| | 1-3 1-イ 産学官連携の推進 | 大学との共同研究により開発された新商品延べ件数(↑) | ↑ | 件 | 令和2年10月末 | 12 | 12 | 12 | 12 | 16 | △停滞 |
| | 1-4 1-イ 圏域市町の連携による企業誘致の推進 | 圏域市町における誘致企業延べ数(↑) | ↑ | 件 | 令和2年10月末 | 7 | 17 | 22 | 22 | 49 | △停滞 |
| | 1-5 1-ウ 盛岡広域まるごとフェア開催事業 | まるごとフェアイベント入場者数(↑) | ↑ | 人 | 令和元年度末 | 4,308 | 0 | 0 | 0 | 10,100 | ■コロナ |
| | 1-6 1-ウ 6次産業化の推進 | 6次産業化の推進へ向けた現地研修、勉強会等により意見交換した企業・団体等(個人起業者含む)の延べ件数(↑) | ↑ | 件 | 令和元年度末 | 14 | 22 | 28 | 28 | 38 | ○順調 |
| | 1-7 1-ウ 盛岡手づくり村における圏域産品等の情報発信 | 首都圏等における物産展等を活用した情報発信の延べ回数(↑) | ↑ | 回 | 令和2年度 | 9 | 11 | 13 | 13 | 27 | △停滞 |
| | 1-8 1-ウ 盛岡手づくり村振興事業 | 盛岡手づくり村来場者数(↑) | ↑ | 人 | 令和元年度末 | 375,531 | 162,308 | 221,192 | 221,192 | 410,000 | ■コロナ |
| | 1-9 1-エ 広域観光推進事業 | 圏域内観光客入込数(↑) | ↑ | 万人回 | 令和元年度末 | 986 | 458 | 集計中 | 集計中 | 1,028 | ◆集計中 |
| | 1-10 1-エ 国際観光客誘致促進事業 | 圏域内外国人観光客入込数(↑) | ↑ | 人回 | 令和元年度末 | 238,784 | 4,612 | 11,013 | 11,013 | 300,000 | ■コロナ |
| | 1-11 1-エ MICEの誘致推進 | MICE開催助成件数(↑) | ↑ | 件 | 令和元年度末 | 22 | 2 | 15 | 15 | 35 | ■コロナ |
| | 1-12 1-エ 盛岡広域フィルムコミッション事業 | 圏域内ロケ支援件数(↑) | ↑ | 件 | 令和元年度末 | 63 | 33 | 33 | 33 | 100 | ■コロナ |
| | 1-13 1-エ いわて・盛岡広域観光センター運営支援事業 | いわて・盛岡広域観光センター来訪者数(↑) | ↑ | 人 | 令和元年度末 | 37,645 | 15,130 | 30,655 | 30,655 | 40,000 | ■コロナ |
| | 1-14 1-エ 教育旅行誘致事業 | 教育旅行入込客数(学校数)(→) | → | 校 | 令和元年度末 | 1,603 | 2,122 | 2,132 | 2,132 | 1,600 | ◎達成 |
| | 1-15 1-エ スポーツツーリズム推進事業 | スポーツ国内大会・合宿や事前キャンプの受入件数(→) | → | 件 | 令和元年度末 | 149 | 24 | 107 | 107 | 149 | ■コロナ |
| | 1-16 1-エ エコツーリズムの振興 | エコツーリズムの振興※該当ページの閲覧件数(↑) | ↑ | 件 | 令和2年度末 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | ■コロナ |

| 事業分類 | 指標名 | 指標 | 単位 | 当初値 | | 令和3年度末 | 令和4年度末 | 現状値 (令和4年度末時点) | 目標値(令和7年度) | 達成状況 | |
|-------------------------|------------------------------------|---|----|--------|--------|--------|--------|-------------------|------------|-------|------|
| | | | | 設定時期 | 値 | | | | | | |
| 戦略2 | 2-1 2-ア 盛岡バスセンター整備事業 | 盛岡バスセンターからのバス発着便数(→) | → | 便 | 令和元年度末 | 1,515 | 1,466 | 1,372 | 1,372 | 1,515 | △停滞 |
| | 2-2 2-ア 幹線道路整備事業(津志田白沢線) | 津志田白沢線の整備予定区間(第1工区)内の供用延長距離(↑) | ↑ | m | 令和元年度末 | 0 | 150 | 150 | 150 | 300 | ○順調 |
| | 2-3 2-ア 幹線道路整備事業(市道谷地頭線外1路線(厨川工区)) | 市道谷地頭線の整備予定区間内の新設歩道(北側)の供用延長距離(↑) | ↑ | m | 令和元年度末 | 0 | 0 | 0 | 0 | 435 | ○順調 |
| 戦略3 | 3-1 3-ア 盛岡保健医療圏における救急医療体制に関する検討 | 盛岡保健医療圏における当番病院の数(小児)(↑) | ↑ | 件 | 令和元年度末 | 4 | 4 | 4 | 4 | 5 | ○順調 |
| | 3-2 3-3 | 盛岡保健医療圏における当番病院の数(第二次)(↑) | ↑ | 件 | 令和元年度末 | 11 | 11 | 11 | 11 | 12 | ○順調 |
| | 3-4 3-ア 盛岡広域シルバーケアSOSネットワークシステム | 盛岡広域シルバーケアSOSネットワークシステム登録延べ件数(↑) | ↑ | 件 | 令和元年度末 | 805 | 1,093 | 1,219 | 1,219 | 1,765 | ○順調 |
| | 3-5 3-ア 保育所の広域入所 | 盛岡市から各広域市町の保育所等へ、各広域市町から盛岡市の保育所等へ入所を希望した児童の内、入所に至った児童の割合(↑) | ↑ | % | 令和元年度末 | 74.2 | 74.0 | 74.6 | 74.6 | 77.4 | △停滞 |
| | 3-6 3-ア 配偶者暴力相談支援センター広域連携事業 | 配偶者暴力相談支援センターの相談件数(→) | → | 件 | 令和元年度末 | 1,111 | 1,015 | 822 | 822 | 1,100 | ×後退 |
| | | 人権出前講座受講者数(→) | → | 人 | 令和元年度末 | 659 | 749 | 479 | 479 | 700 | ■コロナ |
| | | 人権出前講座回数(広域7市町)(→) | → | 回 | 令和元年度末 | 4 | 4 | 1 | 1 | 4 | ■コロナ |
| | 3-7 3-ア 盛岡広域成年後見センター設置運営事業 | 盛岡広域成年後見センター等における年間延べ相談件数(↑) | ↑ | 件 | 令和元年度末 | 566 | 1,404 | 1,372 | 1,372 | 1,168 | ○順調 |
| | | 市民後見人養成講座修了者数(累計)(↑) | ↑ | 人 | 令和元年度末 | 147 | 201 | 224 | 224 | 274 | ○順調 |
| | 3-8 3-ア 障がい者相談支援事業 | 障がい者相談支援事業における圏域内の相談件数(→) | → | 件 | 令和元年度末 | 5,251 | 5,272 | 5,702 | 5,702 | 5,200 | ◎達成 |
| 計画相談支援及び障害児相談支援の利用件数(↑) | | ↑ | 人 | 令和元年度末 | 4,248 | 4,569 | 4,544 | 4,544 | 4,803 | ○順調 | |

| 事業分類 | 指標名 | 指標 | 単位 | 当初値 | | 令和3年度末 | 令和4年度末 | 現状値 (令和4年度末時点) | 目標値(令和7年度) | 達成状況 | |
|----------------------|----------------------------|--|----|--------|-----------|--------|--------|-------------------|------------|--------|------|
| | | | | 設定時期 | 値 | | | | | | |
| 戦略3 | 3-9 3-ア スポーツパル推進事業 | スポーツパル会員数(↑) | ↑ | 人 | 平成30年12月末 | 527 | 2,654 | 3,027 | 3,027 | 10,000 | △停滞 |
| | 3-10 3-ア もりおか就職面接会等 | もりおか就職面接会への参加者数(↑) | ↑ | 人 | 平成29年度 | 305 | 76 | 61 | 61 | 310 | ×後退 |
| | 3-11 3-ア 若者の就業支援事業 | ジョブカフェいわての利用者数(→) | → | 人 | 令和元年度末 | 58,171 | 76,051 | 97,444 | 97,444 | 55,000 | ◎達成 |
| | | もりおか若者サポートステーションに新規登録した盛岡市民のうち就職決定したものの割合(↑) | ↑ | % | 令和元年度末 | 58.8 | 55.4 | 70.7 | 70.7 | 62.9 | ○順調 |
| | 3-12 3-ア 自然災害等対策推進事業 | 災害用非常食糧の備蓄数(↑) | ↑ | 食 | 令和元年度末 | 59,370 | 65,527 | 70,603 | 70,603 | 71,630 | ○順調 |
| | 3-13 3-ア 震災対応事業 | 東日本大震災周年行事の参加者数(→) | → | 人 | 平成30年3月末 | 2,600 | 1,400 | 1,800 | 1,800 | 2,600 | ×後退 |
| | 3-14 3-ア 南岩手山岳遭難対策事業 | 南岩手山岳遭難隊員の訓練受講者数(→) | → | 人 | 令和元年度末 | 64 | 30 | 73 | 73 | 50 | ◎達成 |
| | 3-15 3-ア 岩手県央へい獣処理協議会事業 | 岩手県央へい獣処理施設施設利用頭数(→) | → | 頭 | 令和元年度末 | 825 | 817 | 781 | 781 | 825 | △停滞 |
| | 3-16 3-ア 盛岡広域鳥獣被害防止対策協議会事業 | 有害捕獲に係る研修受講者数(↑) | ↑ | 人 | 令和元年度末 | 25 | 59 | 32 | 32 | 30 | ○順調 |
| | 3-17 3-イ インターンシップ事業 | インターンシップへの参加事業者数(↑) | ↑ | 企業 | 令和元年度末 | 55 | 50 | 58 | 58 | 120 | ■コロナ |
| | 3-18 3-イ 盛岡広域移住・定住促進事業 | 移住ツアーの延べ参加者(↑) | ↑ | 人 | 令和元年度末 | 0 | 27 | 85 | 85 | 100 | ○順調 |
| | 3-19 3-イ 消費者行政の共同実施 | 圏域の消費生活相談における解決率(↑) | ↑ | % | 令和元年度末 | 98.5 | 98.7 | 97.4 | 97.4 | 99 | ×後退 |
| | 3-20 3-イ 電子入札等基盤整備事業 | 入札参加資格申請の電子化率(↑) | ↑ | % | 令和元年度末 | 98 | 98.4 | 99.6 | 99.6 | 100 | ○順調 |
| | 3-21 3-ウ 人材の育成 | 広域他市町の研修に参加した職員の割合(↑) | ↑ | 件 | 令和元年度末 | 8.7 | 9 | 6.9 | 6.9 | 9 | ■コロナ |
| 3-22 3-ウ 国保盛岡地区協議会事業 | 国民健康保険事業に関する会議・研修会の参加者数(↑) | ↑ | 件 | 令和元年度末 | 295 | 37 | 169 | 169 | 332 | ■コロナ | |

| | No. | 事業名 | 事業概要 | R4検討結果 | 事業実施判断 |
|------|-----|--------------------------|--|---|--------------|
| 戦略 1 | 1-ア | 新しい生活・産業様式に対応するための調査研究事業 | 新型コロナウイルス感染症によりもたらされた停滞した経済からの回復を図るための取組(生産性向上のためのデジタル化等未来新技術への対応, 地域間競争を見据え将来を見越した産業分野の育成など)や, 感染の拡大に伴う新たな生活様式に対応した地方移住や副業, ワークライフバランスの充実への関心の高まりに対する対応(ワーケーション, サテライトオフィス, テレワークなど)に係る取組について調査研究を行う。 | 盛岡広域振興局と連携し、盛岡広域首長懇談会事務検討会議地方創生連携専門部会にて、県DX 推進専門官を講師に招き、勉強会を開催。引き続き、国のデジタル田園都市国家構想の実現を見据え、各市町の取組状況について情報共有を図りながら、広域連携による展開の可能性について調査研究を行う。 | A:引き続き検討を行う。 |
| | 1-イ | 国際リニアコライダー誘致推進事業 | 国際リニアコライダーの誘致実現を目指した取組を進めるとともに、外国人居住者の増加や関連企業の集積、新産業の創出など誘致実現後の社会変化に対応するため、情報共有を図りながら広域で連携したまちづくりのあり方を検討する。 | 国際リニアコライダーの誘致実現を目指した取組を進めるとともに、外国人居住者の増加や関連企業の集積、新産業の創出など誘致実現後の社会変化に対応するため、情報共有を図りながら広域で連携したまちづくりのあり方を検討する。 | A:引き続き検討を行う。 |
| 戦略 2 | 2-ア | 広域的公共交通網の利便性向上に係る調査研究事業 | 人口減少社会においても公共交通網を維持しつづける観点から、利便性の向上を図り以て利用者を確保するため、交通系ICカードなどの導入やサービスの共通化、電子決済データと車両運行管理データを統合した情報分析による運行経路やダイヤの最適化、異なる公共交通間の乗り継ぎの改善など、MaaS基盤の整備を見据えた調査研究を行う。 | ICカードの導入については、令和4年度に岩手県交通の一部路線の交通系ICカード導入事業に対する補助を実施し、令和5年度以降も岩手県交通の残りの路線に順次導入するため支援を検討している。(岩手県北自動車及びJRバス東北については導入済み。) 現時点で、バス事業者、鉄道事業者、タクシー事業者の市内乗入路線の全てにICカードが導入されていないことから、具体的な検討には至っておらず、今後もICカードの普及に向け支援を行うとともに、継続してデータ活用による運行改善や割引制度などについて事業者等を交え調査研究を行う。 | A:引き続き検討を行う。 |
| | 2-ア | 北岩手・北三陸横断道路の整備促進 | 盛岡市以北において、内陸部と三陸沿岸北部を結ぶ路線は、線形不良や隘路区間のほか、急勾配・急カーブが連続する交通の難所であり、移動に多くの時間を要する状況にある。盛岡以北の市町村には、農林水産物など魅力ある地域資源が数多くあるほか、災害時の後方支援拠点に指定されていることなどから、観光や災害対策の面など多分野において地域間連携を加速させ、地方創生や人口減少対策に寄与するため、「北岩手・北三陸横断道路」の整備促進に向けた要望活動を行う。 | 北岩手・北三陸横断道路整備促進期成同盟会が主体となり、当該路線の整備促進に向けた要望活動を展開してきたところである。 令和3年6月に「岩手県新広域道路交通ビジョン」「岩手県新広域道路交通計画」が策定され、当該路線は、高規格道路としての役割が期待されるものの、個別路線の調査に着手していない「構想路線」として「(仮称)久慈内陸道路」の名称で位置付けられたところである。 次の段階となる個別路線の調査など及び高規格道路として早期に着工・整備されるよう、今後も継続して要望を行う。 | A:引き続き検討を行う。 |

| No. | 事業名 | 事業概要 | R4検討結果 | 事業実施判断 |
|-----|----------------------|--|--|--------------|
| 2-ア | 盛岡西廻りバイパス北バイパスの整備促進 | 盛岡西廻りバイパス北バイパスは、平成26年度に策定した「盛岡広域都市圏道路網基本計画」において、2環状6放射の骨格道路網の重要な幹線道路として位置づけられており、国道46号西廻りバイパスの4車線化も進んでいる。盛岡西廻りバイパス北バイパスの早期整備は、盛岡広域圏における主要幹線である主要地方道盛岡環状線や国道4号盛岡バイパスの渋滞緩和にも繋がり様々な盛岡広域圏のネットワークの強化を図ることができることから、盛岡広域圏の市町及び国、県と連携した取組を進める。 | <p>国道46号西廻りバイパスについては、国土交通省東北地方整備局から令和3年4月に公表された「防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム(東北ブロック版)」に位置付けられたところであり、今後さらに事業進捗が図られるものと考えているが、2車線供用区間の4車線化の整備促進を継続して要望する。</p> <p>北進計画については、令和3年度から国が開催している盛岡都市圏道路の勉強会の中でも話題として挙げられているが、現時点では構想路線の段階であり具体的なルートも決まっていないと伺っているところであり、今後も早期整備について継続して要望を行う。</p> | A:引き続き検討を行う。 |
| | 一般国道4号「盛岡南道路」の整備促進 | 一般国道4号「盛岡南道路」は、平成26年度に策定した「盛岡広域都市圏道路網基本計画」において、重要な幹線道路に位置づけられている。交通ネットワークの充実により、人やモノの流れの活発化や地域資源や機能の相互利用が見込まれることから、各市町を結ぶ道路ネットワークを形成するため、盛岡広域圏の市町及び国、県と連携し、整備促進に向けた取組を進める。 | <p>盛岡南道路については、国において、これまで計画段階評価や都市計画決定を経て、令和4年度に新規事業化されたところである。盛岡市を中心とした都市圏の圏域人口の維持や持続可能な経済・産業圏域の形成、高次都市機能の集約強化、そして「命を守る医療体系」を機能させるとともに、これらを支える渋滞のない道路ネットワークを形成するため、一般国道4号「盛岡南道路」の整備促進について今後も継続して要望を行う。</p> | A:引き続き検討を行う。 |
| 戦略3 | 3-イ 地方創生SDGs推進調査研究事業 | SDGs登録・認証等制度により、SDGsに積極的に取り組む地域事業者等の「見える化」を行い、地域事業者等の認知度向上や人材確保、多様なステークホルダーの連携による自律的好循環の形成を図り、コロナ禍において新型コロナウイルス感染症によりもたらされた停滞した経済からの回復を図るとともに、地方創生及びSDGsの推進を図る | <p>盛岡市と岩手県立大学との協働研究「盛岡広域地方創生SDGs登録等制度の構築に係る調査研究」を実施し、昨年度抽出された課題の解消へ向けたアプローチ方法を探り、盛岡広域における構想案をまとめ、盛岡広域首長懇談会事務検討会議地方創生連携専門部会を構成する各市町担当者へヒアリングを行い、事業の方向性について了承を得た。</p> <p>令和5年度については、事業の試行へ向け制度構築や体制整備等について調整を行うため、引き続き検討を行う。</p> | A:引き続き検討を行う。 |
| | 3-イ デジタル化推進調査研究事業 | Society5.0の進行やコロナ禍における行政のデジタル化の推進について、広域で取り組むことが効果的である分野の選定や協同して取り組む手法について調査研究を行う。 | <p>盛岡広域振興局と連携し、盛岡広域首長懇談会事務検討会議地方創生連携専門部会にて、県DX推進専門官を講師に招き、勉強会を開催。引き続き、国のデジタル田園都市国家構想の実現を見据え、各市町の取組状況について情報共有を図りながら、広域連携による展開の可能性について調査研究を行う。</p> | A:引き続き検討を行う。 |